

令和4年度全国学力・学習状況調査 結果概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査実施日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校第6学年、中学校第3学年

本市の 実施状況	実施 校数	当日実施した児童生徒数 ※		
		国語	算数・数学	理科
小学校	16校	1,389名	1,388名	1,386名
中学校	7校	1,243名	1,244名	1,245名

※ 後日実施した児童生徒の結果は集計値に含まれません。

4 調査内容

(1)教科に関する調査 国語、算数・数学、理科

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2)生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査

- ①児童生徒に対する調査
(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関すること)
- ②学校に対する調査
(学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関すること)

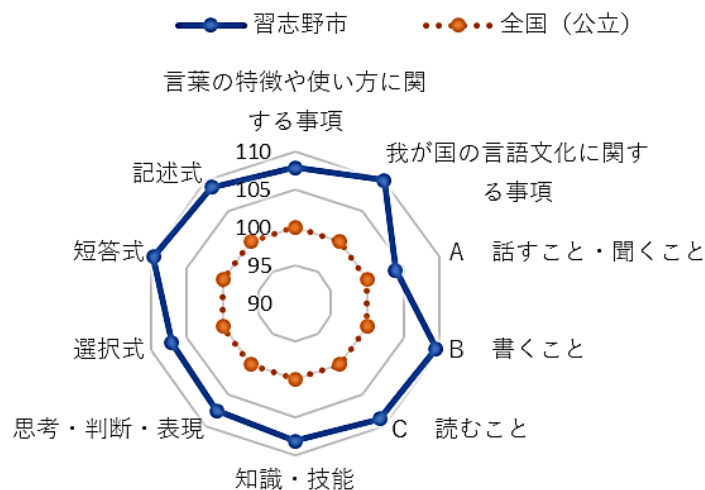
5 教科に関する調査の結果

(1) 小学校・国語

① 正答率

	習志野市(%)	千葉県(%)	全国(%)
R4 国語	71	66	65.6
R3 国語	70	65	64.7
R1 国語	66	63	63.8

② 学習指導要領の内容の平均正答率の状況



全国平均を 100 としたときのグラフ(R4 年度)

③ 成果と課題、今後の取組

成果 ①登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えたり、人物像や物語の全体像を具体的に想像したりすることができている。

②基本的な語彙力の定着が見られる。

③各問題の無解答率は全ての問題で全国平均を下回っている。

課題 ①「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける」問題の正答率が 42.5%であった。全国平均は上回っているが、大きな課題である。出題は記述式で、内容や文字数の条件を付けて自分の文章のよさを書くものであった。

②互いの考えや作品等の良さを認める、良さを考える経験、そして条件付きの文章における解答の経験が不足していることが考えられる。無解答率も高い。

③「話すこと・聞くこと」の「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」問題の正答率が低かった。

今後の取組

【「条件作文」に取り組む】

①作文への取組を継続するとともに、テーマや文字数、取り入れるキーワードなどの条件を付けて取り組む。(作文指導)

【互いを認め合う話し合い活動】

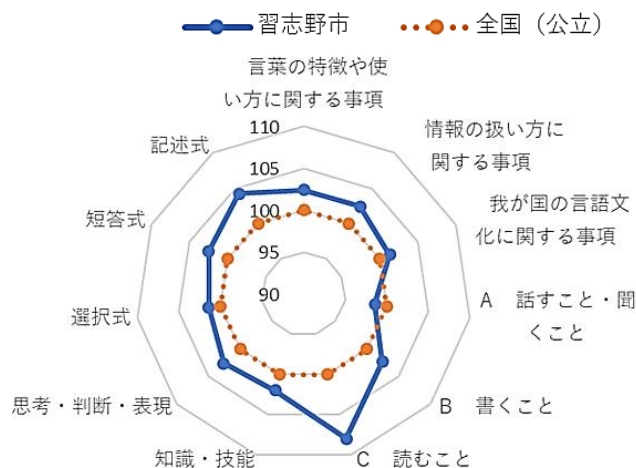
①小集団において、自分の思いを簡潔にまとめて伝え合い、類似点や相違点、それぞれの思いの良さについて話し合う。この活動を通して自分の思いに自信がもてるようになっていく。

(2) 中学校・国語

① 正答率

	習志野市(%)	千葉県(%)	全国(%)
R4 国語	71	68	69.0
R3 国語	67	65	64.6
R1 国語	75	72	72.8

② 学習指導要領の内容の平均正答率の状況



全国平均を100としたときのグラフ(R4 年度)

③ 成果と課題、今後の取組

成果①特に大きく上回ったのは、「文章表現の技法について理解する」問題と、文章を読む際の「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する」問題である。

②総じて「読むこと」に関する問題は正答率が高く、長文でもしっかりと読み、内容を確実に理解できていると考えられる。

課題①「我が国の言語文化に関する事項」において、行書の特徴を問う問題が最も正答率が低く、全国や県を下回った。筆順が変わるなどの特徴を理解できていなかった。

②「書くこと」に関して「自分の考えが伝わる文章になるように、特徴を明確にして書く」問題も正答率が低かった。自分の考えをまとめるだけでなく、書き出しやキーワードなどの条件付きの問題であった。

③「話すこと・聞くこと」に関して「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」問題の正答率が低く、無解答率が最も高かった。特に「言葉の抑揚や強弱、間の取り方」など話し方の技能について解答できなかった。

今後の取組

【ICT 活用】

①書写の時間において ICT を有効に活用して、文字の特徴や書き順の違いなど、視覚で捉え、着実な理解を図っていく。

【書くことの力を高めるために】作文指導

①書き出しや文字数等の制限を加えた作文指導に継続的に取り組む。

【話すこと・聞くことの力を高めるために】

①話し方の技能を伸ばすために、スピーチの模範を提示するとともに、伝え合い、聞き合う機会を定期的に設け、相手にどう聞こえるか、伝わるかを実感させていく。

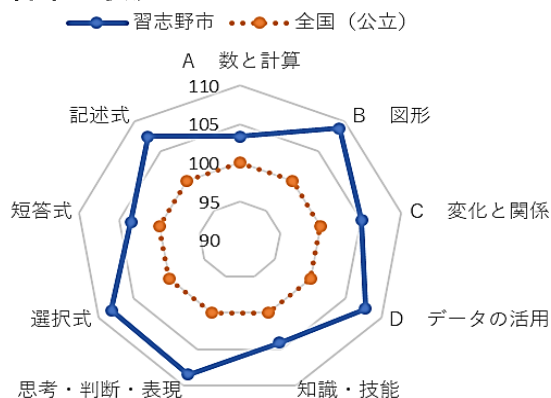
②日々の授業の中で、自分の考えが伝わるようにするために、課題に対して自分が最も述べたいことをノートに書き出す活動を継続する。

(3) 小学校・算数

① 正答率

	習志野市(%)	千葉県(%)	全国(%)
R4 算数	67	63	63.2
R3 算数	75	70	70.2
R1 算数	69	66	66.6

② 学習指導要領の内容の平均正答率の状況



全国平均を 100 としたときのグラフ(R4 年度)

③ 成果と課題、今後の取組

成果 ①乗法の計算、最小公倍数、図形を構成する要素に着目した長方形の意味や性質の理解、単純な割合を分数で表現、表を読み取って計算で求める数を導き出すといったことができている。

②知識・技能については、普段学習している授業などの中で身に付いていると言える。

課題 ①身に付けた知識・技能について、その活用や表現ができていないことや日常的な事象と結び付いていないことが課題である。例えば、果汁の割合の問題では、飲み物を半分に分けると果汁も半分になると答えた児童は約 68%であった。生活体験に基づいた判断に欠ける結果であった。

②概数の求め方については、四捨五入、切り上げ、切り捨てといった概数の求め方は理解しているものの、その使い分けなど理解ができていない。そのため 85×21 の答えが 1,470 より大きくなることを簡潔に考える問題では目的に合った処理の仕方ができず、正答率が約 36%であった。

今後の取組

【日常の事象とのつながりをもたせるために】

- ①導入などで扱った日常的な事象と学んだ内容を授業の終わりに振り返らせ、他に似たような事象がないかを含め、自分の言葉でノートにまとめさせる。
- ②果汁の割合の問題や概数の問題のように、実体験をもとに考えたときに「なぜ？どうして？あれ、おかしいな？」という疑問をもてるような題材や発問を準備することで、学習への意識を向上させ、学びへの集中力を高めていくことも必要である。
- ③横断的な視点で他の授業や授業外でのつながりを示していくことで、より身近に学びのつながりを意識させていくアプローチも必要である。

【記述式の正答率向上に向けて】

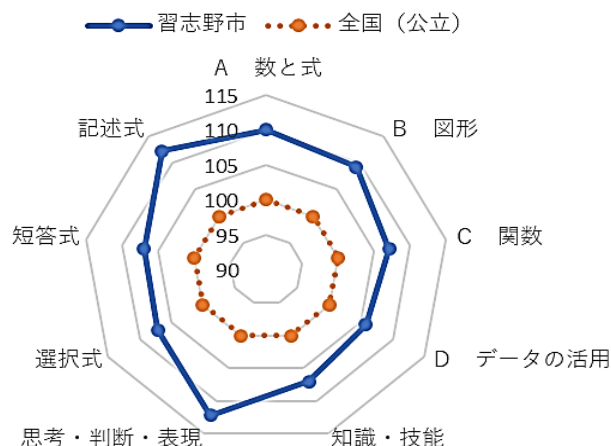
- ①算数で習った用語や表現を使って、ノートに箇条書きから始めて、自分でまとめる練習をさせる。
- ②数値を変えた類似の説明問題を使い、真似をしながら解く練習をさせることで、同じ説明で良いか、どこに違いがあるかを読み解く力を付ける必要がある。

(4) 中学校・数学

① 正答率

	習志野市(%)	千葉県(%)	全国(%)
R4 数学	56	50	51.4
R3 数学	60	56	57.2
R1 数学	60	58	59.8

② 学習指導要領の内容の平均正答率の状況



③ 成果と課題、今後の取組 **全国平均を100としたときのグラフ(R4 年度)**

成果 ① 全体正答率、各評価の観点項目ともに、全国平均を約5%上回っており、昨年度と同様の結果となっている。

② 知識・技能においては単元ごとに差はあるものの、素因数分解、連立二元一次方程式、確率の意味、文字式の計算、座標、三角形の合同条件については、普段学習している授業などの中で、身に付いていると言える。

課題 ① 関数、データの活用、記述式に課題がある。特に、「記述式」においては約40%、図形の証明については15%の正答率で、無解答率も1割を超える結果であった。

② 4の倍数を示す証明のように $4 \times (\text{整数})$ が4の倍数であることや問題文の言葉を情報としてとらえ数式に置き換えられなかったりする部分に課題がある。

③ グラフ、表、式などを用いて未知の値を求める方法を説明する上で、関数の既習内容の活用や、数学の用語を使って言葉で表現する点に課題がある。

今後の取組

【記述式の正答率向上に向けて】

- ① 数学も日本語や英語と同じ言語であるという認識をもたせることが大切である。
⇒ 数学的表現や記号の必要性を意識させ、自分で表現をさせる練習が必要である。
- ② 段階に応じて、キーワードや記号などを穴埋めにする、キーワードを使って説明するというように、まず記述することに慣れ、自信をもたせることが大切である。
- ③ 証明などの記述上のルールや、既習内容に結び付けた根拠の探し方の基本を繰り返し練習させる。

【関数の正答率向上に向けて】

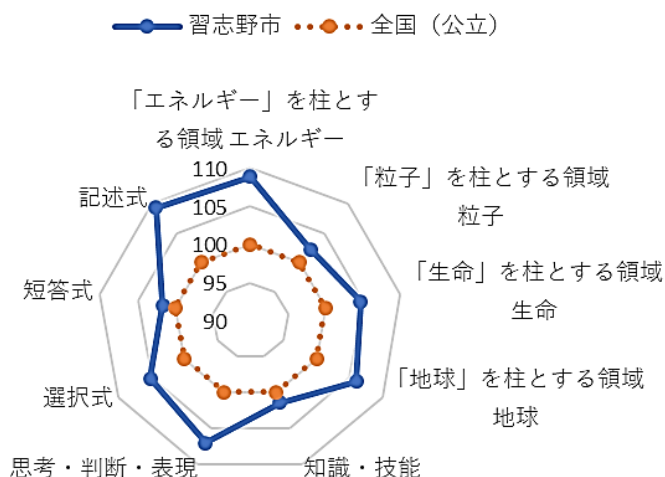
- ① 式・表・グラフの3つの表現のつながりについて押さえることが重要である。
⇒ 3つの表現の関係、それぞれの良さを繰り返し確認し、スパイラル学習をしながら定着させる必要がある。
- ② 日常の身近な事象を取り上げながら、式・表・グラフから既習事項の知識を利用して様々な情報が引き出せることを確認し、活用の仕方の定着を図る必要がある。

(5) 小学校・理科

① 正答率

	習志野市(%)	千葉県(%)	全国(%)
R4 理科	67	63	63.3
H30 理科	55	51	51.5

② 学習指導要領の内容の平均正答率の状況



全国平均を100としたときのグラフ(R4 年度)

③ 成果と課題、今後の取組

成果 ① 全体の正答率や学習指導要領の区分・領域、評価の観点、全てにおいて全国平均を上回っている。

② 評価の観点では、「思考・判断・表現」が4.5%上回っている。記述式3題では、全国平均を4.4%上回っている。特に「既存の情報と追加された情報をもとに、まとめを検討・改善し、自分の考えをもち、その内容を記述する」問題では、全国平均正答率を5.8%上回るなど、よく理解できていた。

課題 ① 「メスシリンダー」についての問題では、器具の名称を正しく解答できず、目盛りの読み方や扱い方に課題があった。無解答率は約13%で全国平均よりも高かった。

② 最も正答率が低かった問題は、「光の性質をもとに鏡を操作して、指定した的に日光を当てることができる人を選ぶ」であった。全国平均は上回っているものの、正答率は約30%と低かった。「日光は直進する」ことを理解していれば解答できるが、思考力だけでなく、問題文を読み解く力にも課題があったと考えられる。

今後の取組

【基礎基本を押さえて力を高めるために】

- ① 実験をするにあたって、器具の正しい名称や扱い方について、しっかりと理解させ、基礎基本の定着を図っていく。
- ② 授業で、これまでに習った内容を活用して新たな学習課題を作り、課題に対して予想を立てさせ、見通しをもたせる。
- ③ 実験の観察を行って得た結果から、学習課題に沿った気づきや分かったことを児童自身の言葉で文章をまとめさせ、書く力の育成を図る。

【粒子領域の正答率向上に向けて】

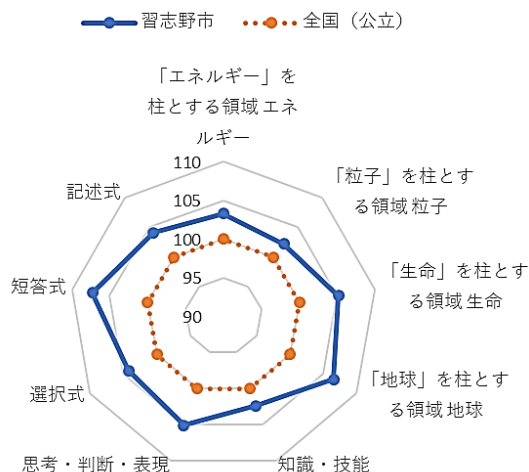
- ① 粒子の領域においては、食塩を水に溶かしても、食塩の重さがなくなることから、溶けて目に見えなくても、その食塩水に食塩は存在している。目に見えないものを創造する力を育成するために、イメージ図等を活用するなどの学習を繰り返す必要がある。

(6) 中学校・理科

① 正答率

	習志野市(%)	千葉県(%)	全国(%)
R4 理科	51	48	49.3
H30 理科	68	65	66.1

② 学習指導要領の内容の平均正答率の状況



全国平均を 100 としたときのグラフ (R4 年度)

③ 成果と課題、今後の取組

成果 ① 全体の正答率や学習指導要領の区分・領域、評価の観点、全てにおいて全国平均を上回っている。

② 評価の観点では、「思考・判断・表現」が 2.6% 上回っている。記述式 5 題では、全国平均を 2.2% 上回っている。特に「アリの行列のつくり方」についての記述 2 問については、全国平均を約 4.5% 上回るなど、よく理解できていた。

課題 ① 21 問のうち、全国平均を下回った問題は 3 問である。「化学反応式で表す」、「適切に処理されたグラフを選択する」、「対象を比較しながら観点と基準を明確にしながら判断する」問題である。

② 一番正答率が低かった問題は、「おもりに働く重力と釣り合う力の矢印を選択し、その力について説明する」問題であった。

③ エネルギーの領域である「おもりとばね」の問題は、市内・全国ともに正答率が低く、知識・技能の定着に課題が見られた。

今後の取組

【基礎基本を押さえて力を高めるために】

- ① 授業の中で法則や定義などの基本事項をしっかりと定着させる。その中で、記述式で無解答の生徒に対しては、何が分からないかを聞き取るなど、丁寧な指導を行っていく。
- ② これまでに学習した内容を活用して学習課題を設定し、予想を立てさせることで解決に向けた見通しをもたせる。
- ③ 実験・観察の結果をもとに、分かったこと、気付いたことを生徒自身の言葉で文章に表し書く力を育成する。
- ④ 冷たいコップの周りについて水滴から空気中の水分について疑問をもたせるなど、日常の体験の中から課題を見出す体験を多くさせ、生活と学習を結び付けさせる。

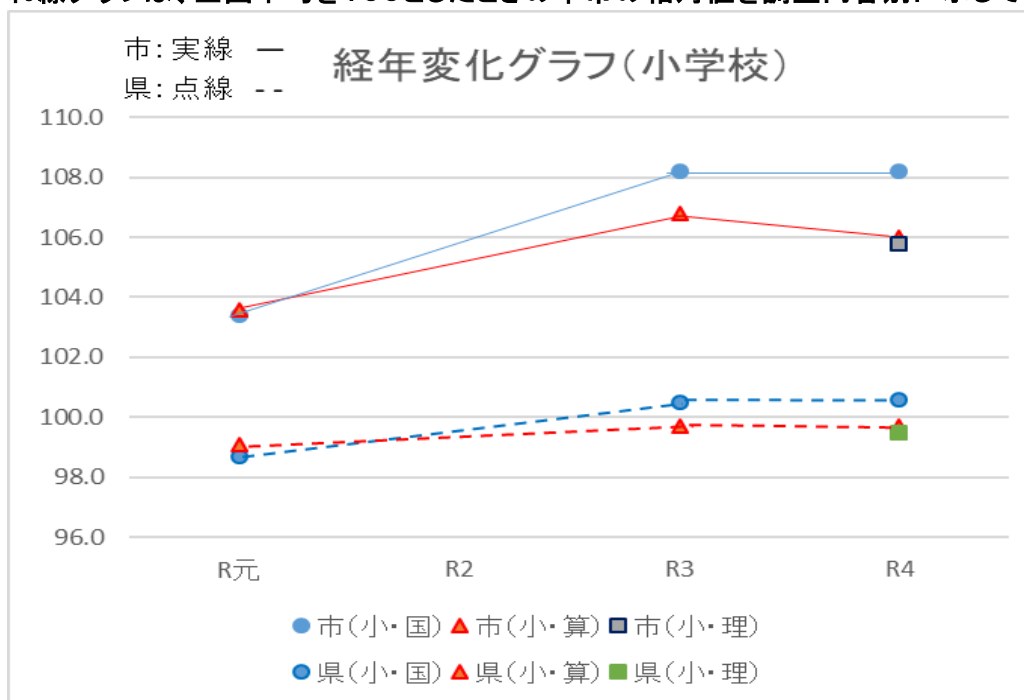
【粒子領域の正答率向上に向けて】

- ① 粒子のイメージをしっかりと身に付けさせるために、モデルや模型を使うなどの学習を行う必要がある。

6 経年変化グラフ

(1) 小学校

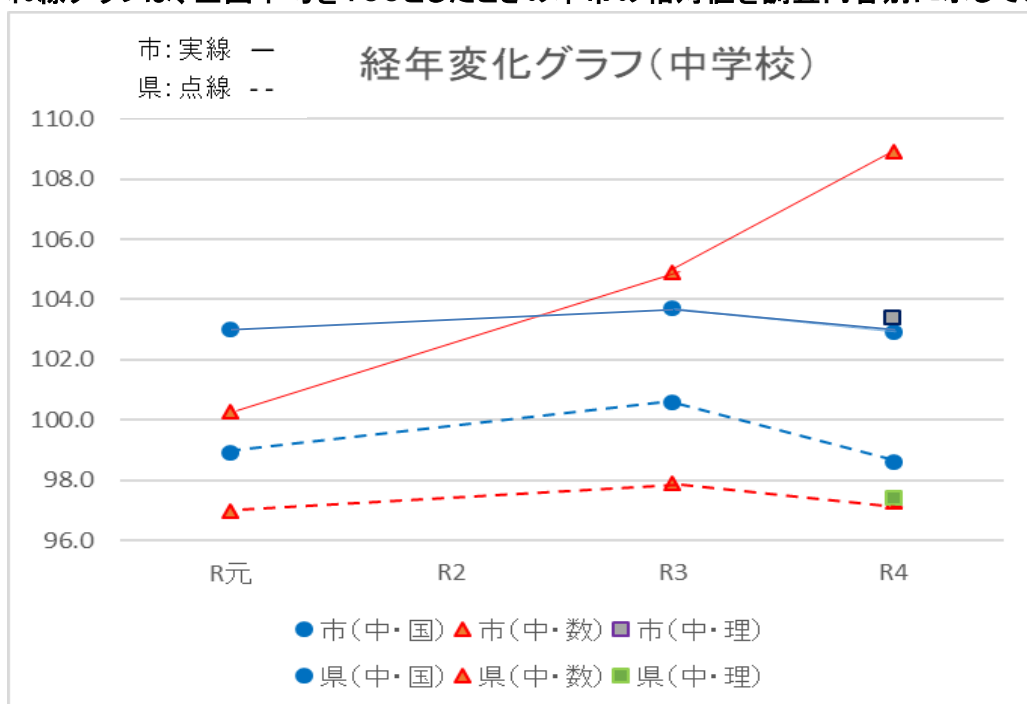
※折れ線グラフは、全国平均を100としたときの本市の相対値を調査内容別に示している。



※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策により中止となりました。

(2) 中学校

※折れ線グラフは、全国平均を100としたときの本市の相対値を調査内容別に示している。

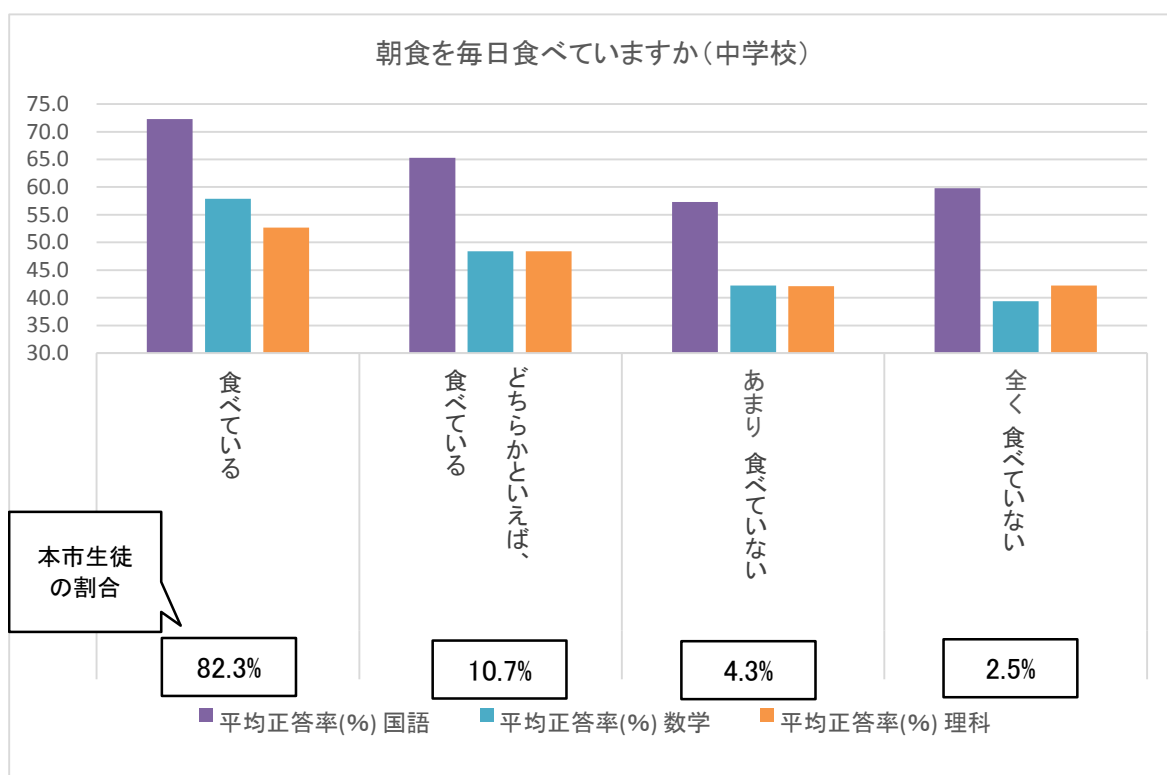
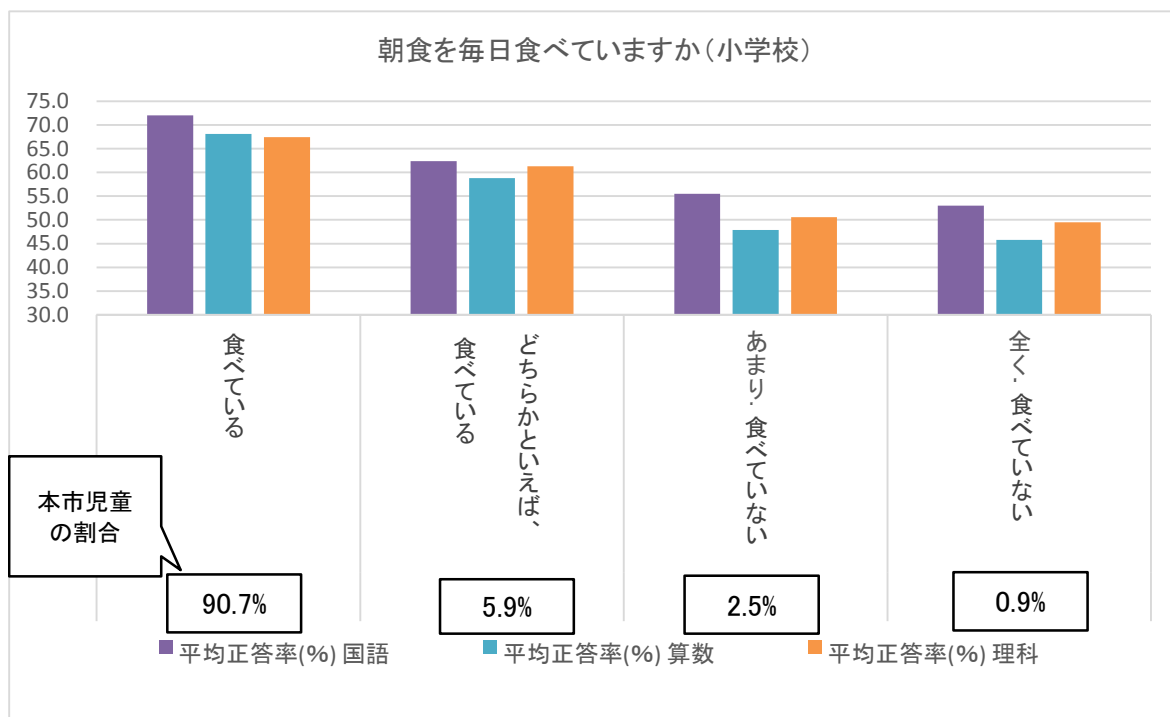


※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策により中止となりました。

7 児童生徒質問紙調査の回答結果と教科に関する調査の正答率との相関関係

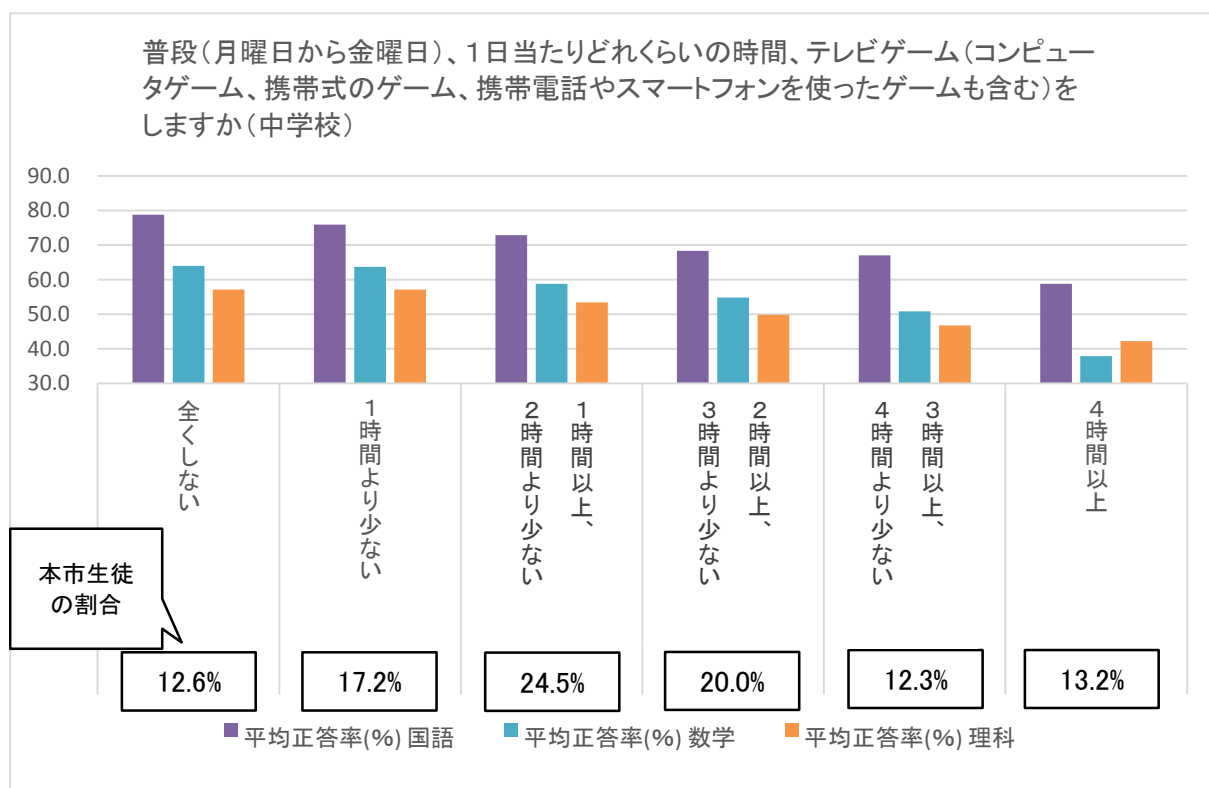
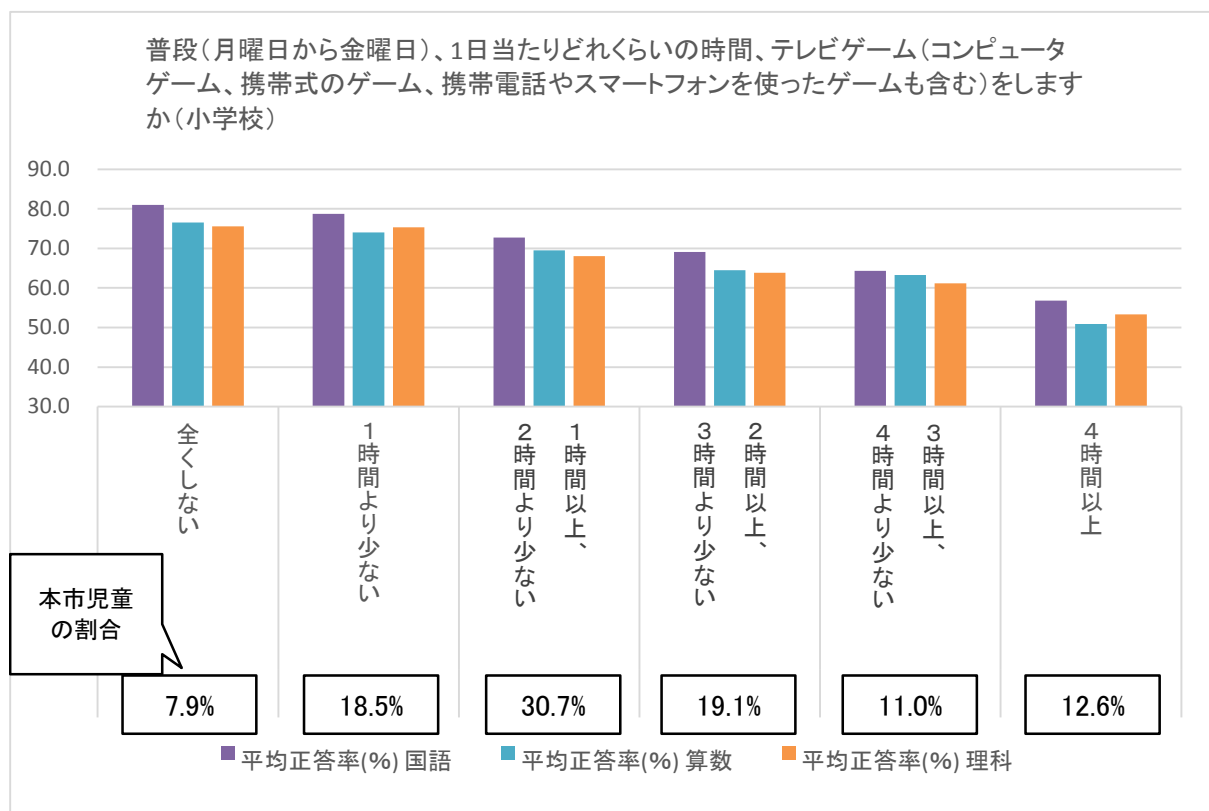
※質問事項に対する児童の回答(選択肢)と、教科に関する調査の正答率との関係を棒グラフで示しています。

Q:朝食を毎日食べていますか。



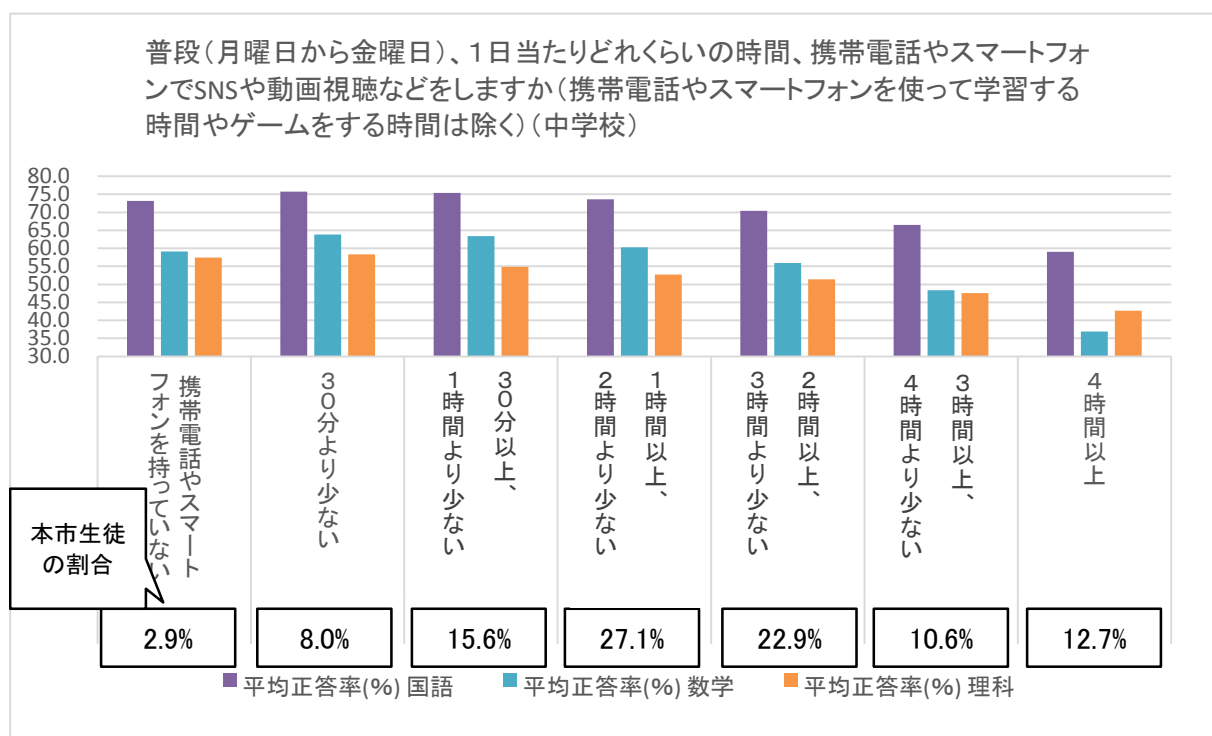
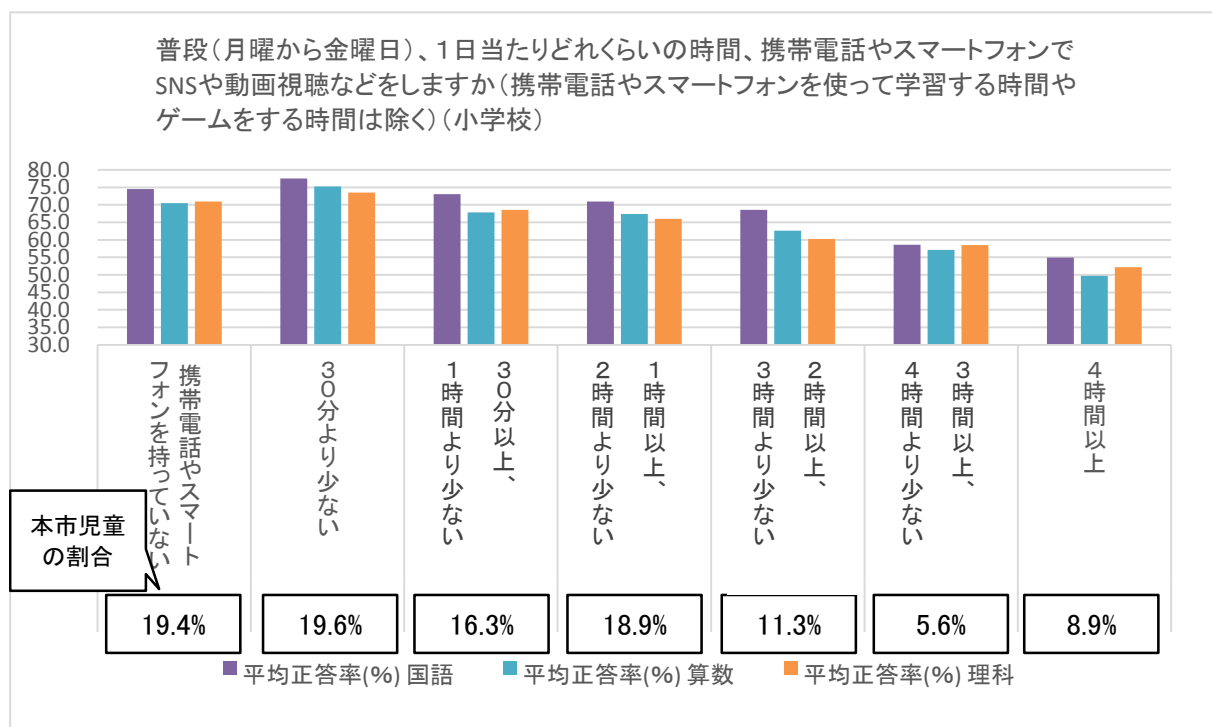
概ね相関関係にあり、毎日朝食をとっている児童生徒の正答率が高い傾向にある。

Q: 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



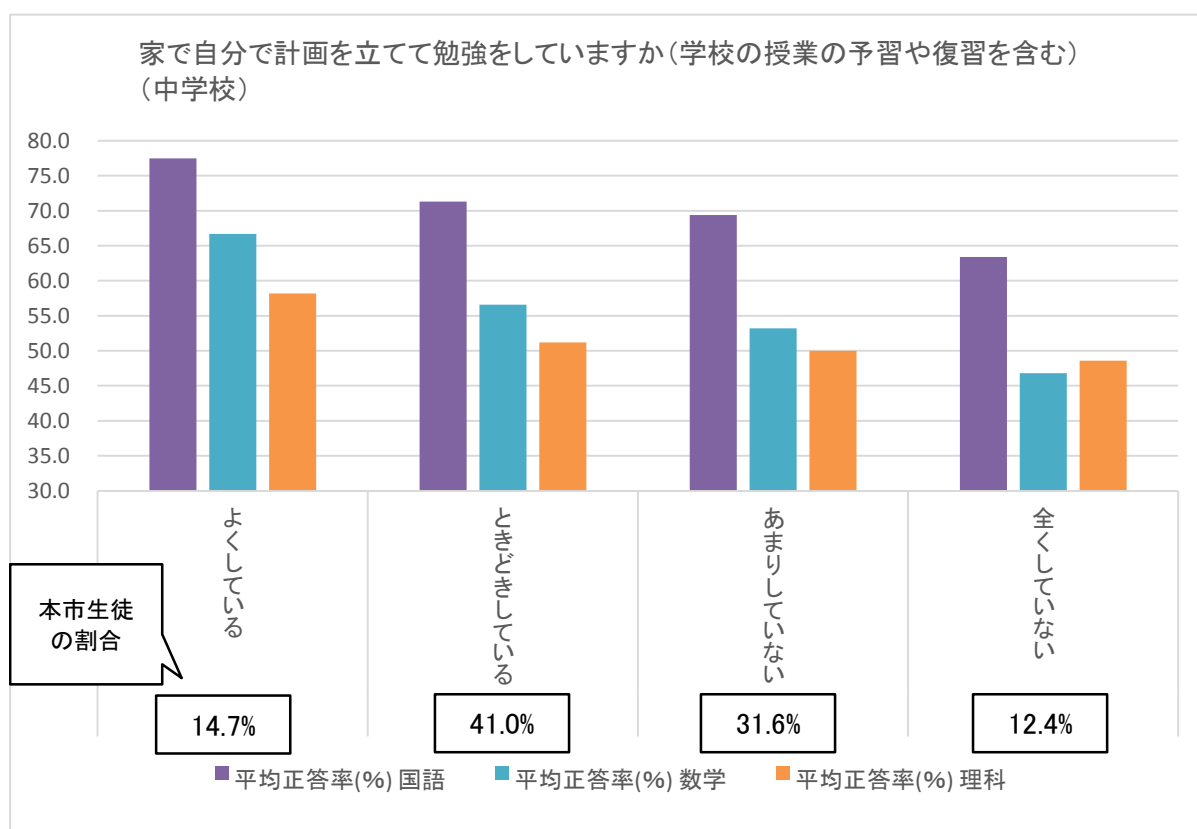
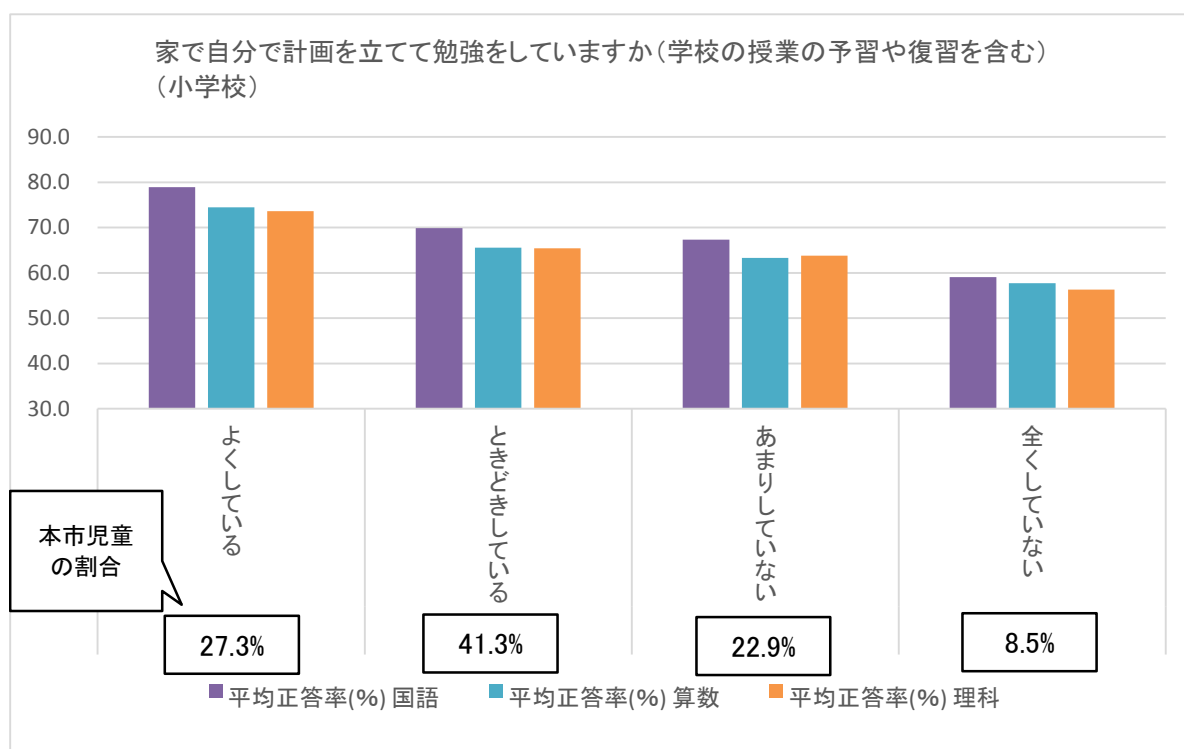
概ね相関関係にあり、テレビゲームをする時間の少ない方が、正答率が高い傾向にある。

Q: 普段（月曜から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）



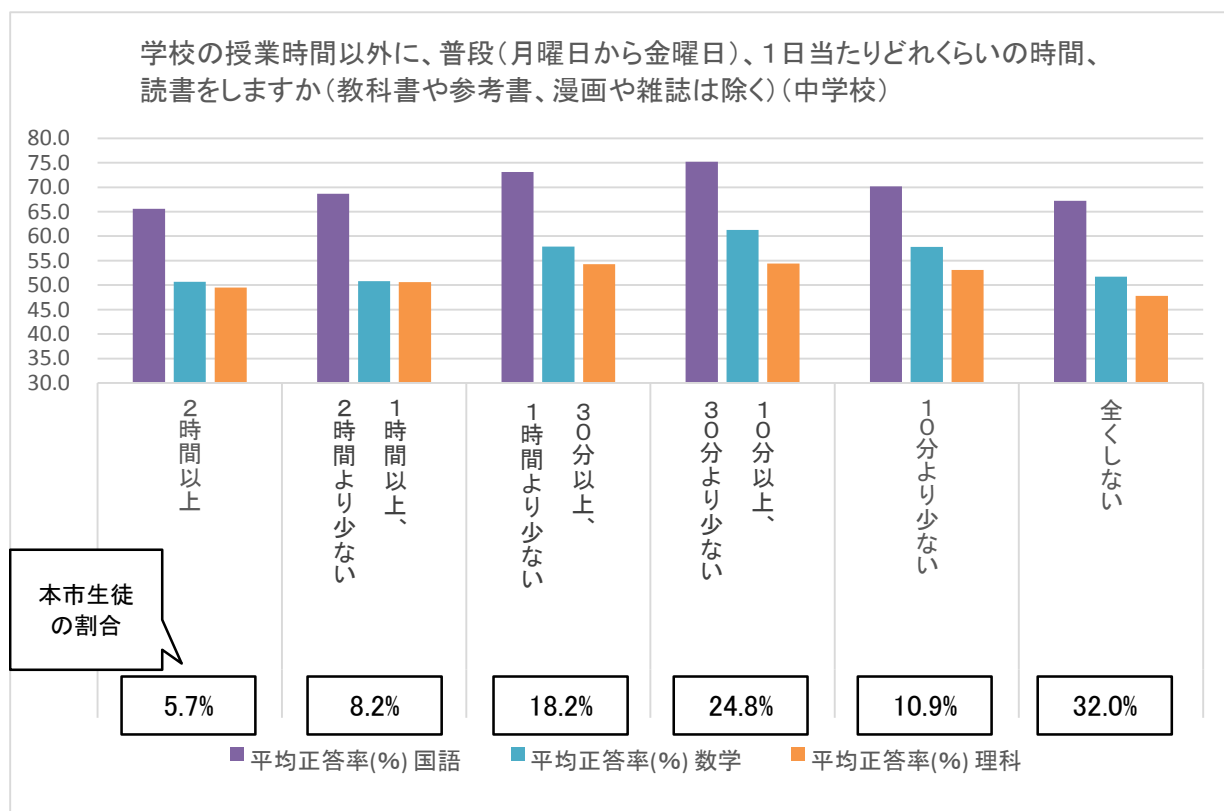
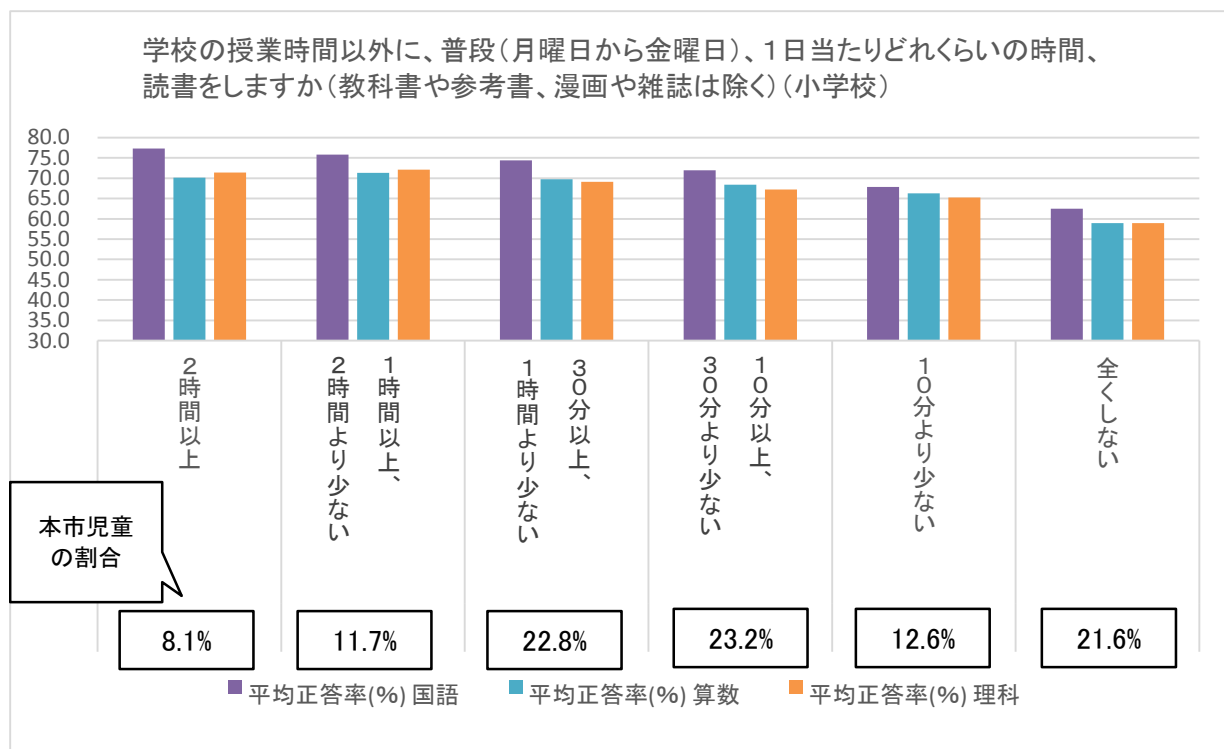
概ね相関関係にあり、1日当たり、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をする時間の少ない方が、正答率が高い傾向にある。

Q: 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)



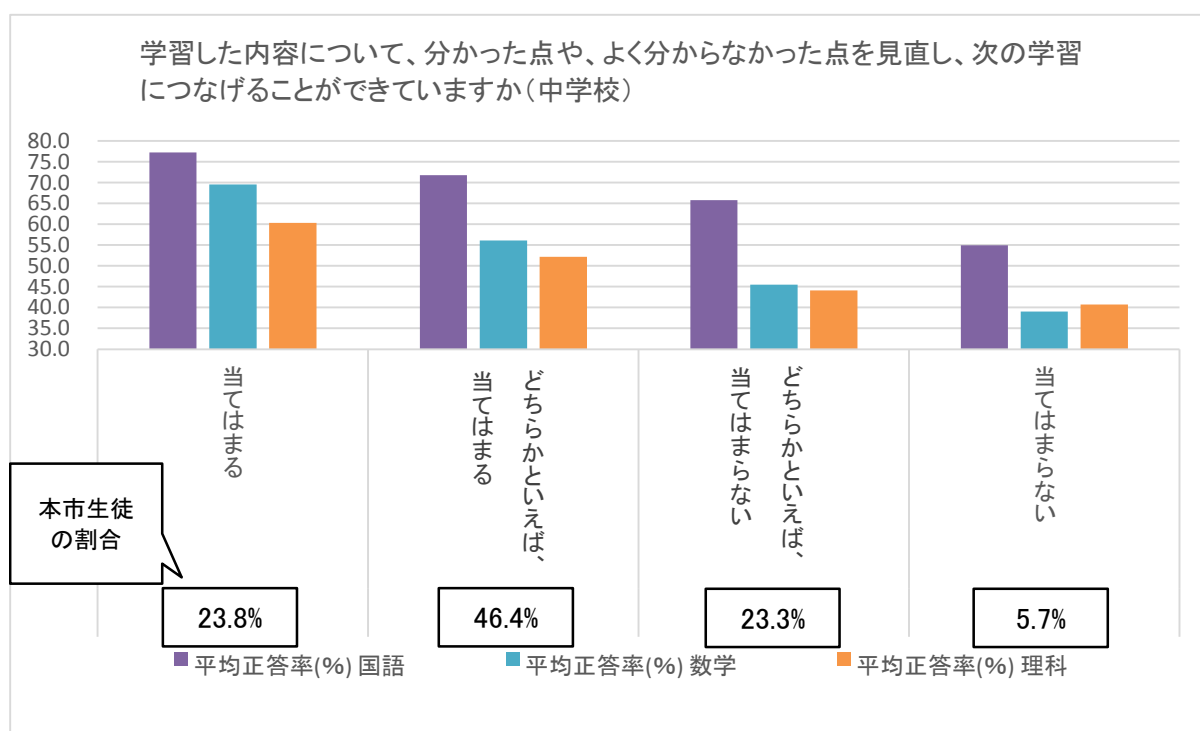
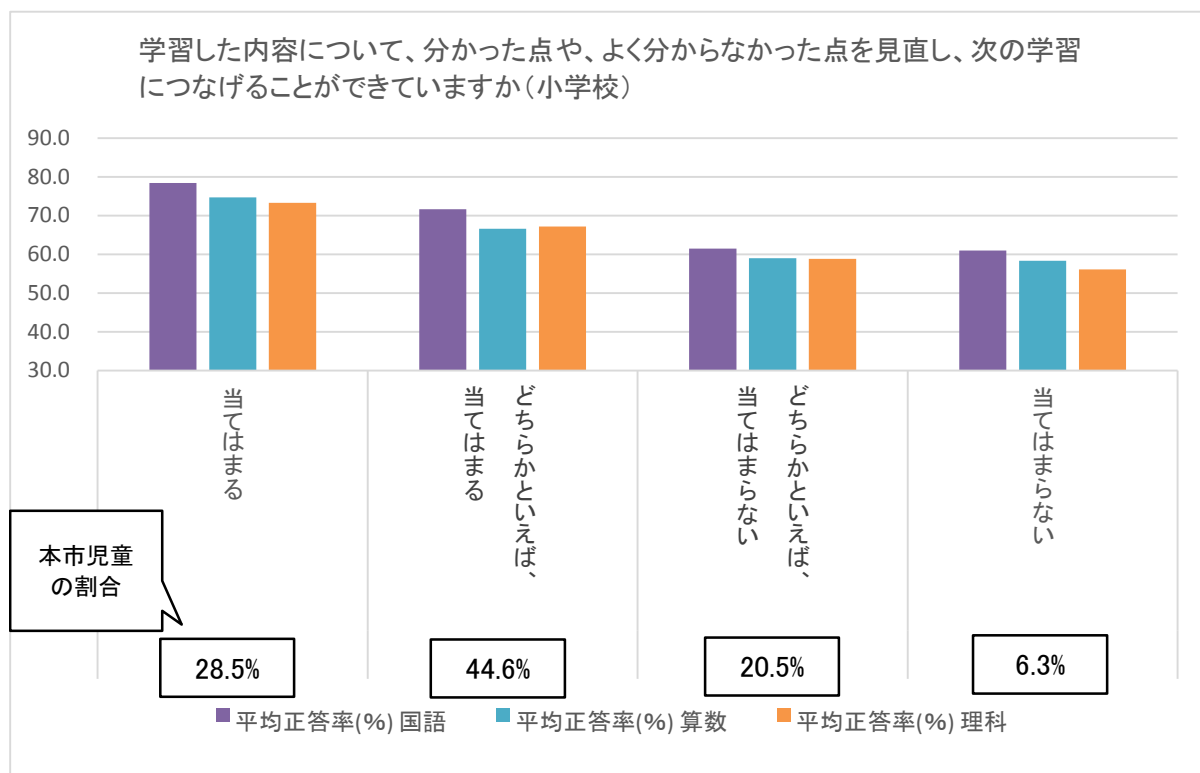
概ね相関関係にあり、家庭において自分で計画を立てて勉強をする方が、正答率が高い傾向にある。

Q: 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



ほとんど読書をしないよりは、した方が正答率が高い傾向にあるものの、読書をする時間が多いからといって、必ずしも正答率が高くなるわけではない。

Q: 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



相関関係にあり、学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し(学習の振り返り)、次の学習につなげることができている児童生徒ほど正答率が高い傾向にある。

8 ICT の活用に関する児童生徒質問紙調査の分析

小学校設問	Q：5年生までに受けた授業で、PC・タブレット端末等の機器をどの程度使用したか			
-------	---	--	--	--

<小学校活用率>

週1回以上	R3	本市 36.6%	千葉県 38.0%	全国 40.1%
	R4	本市 80.1%	千葉県 81.5%	全国 83.2%

昨年度比伸び率 43.5%増 43.5%増 43.1%増

<小学校未使用率>

月1回未満	R3	市 22.2%	千葉県 22.8%	全国 24.8%
	R4	本市 5.9%	千葉県 5.4%	全国 5.1%

昨年度比伸び率 16.3%減 17.4%減 19.7%減

中学校設問	Q：1、2年生の時に受けた授業で、PC・タブレット端末等の機器をどの程度使用したか			
-------	---	--	--	--

<中学校活用率>

週1回以上	R3	本市 13.9%	千葉県 25.1%	全国 33.4%
	R4	本市 83.7%	千葉県 77.1%	全国 80.6%

昨年度比伸び率 69.8%増 52.0%増 47.2%増

<中学校未使用率>

月1回未満	R3	本市 52.3%	千葉県 38.3%	全国 30.7%
	R4	本市 3.4%	千葉県 5.4%	全国 5.0%

昨年度比伸び率 48.9%減 32.9%減 25.7%減

小・中学校設問	Q：ICTの授業での活用場面			
---------	----------------	--	--	--

<小学校 R4>

検索活動	本市 72.3%	千葉県 76.3%	全国 76.1%	(全国比 - 3.8%)
意見交換	本市 32.0%	千葉県 43.5%	全国 49.4%	(全国比 - 17.4%)
思考整理・発表	本市 32.6%	千葉県 41.8%	全国 45.2%	(全国比 - 12.6%)

<中学校>

検索活動	本市 79.2%	千葉県 73.7%	全国 71.7%	(全国比 + 7.5%)
意見交換	本市 32.4%	千葉県 36.9%	全国 43.5%	(全国比 - 11.1%)
思考整理・発表	本市 23.4%	千葉県 29.9%	全国 35.3%	(全国比 - 11.9%)

9 調査結果についての考察

<7 児童生徒質問紙調査の回答結果と教科に関する調査の正答率との相関関係から>

Q 朝食を毎日食べていますか

昨年度も基本的な生活習慣と学力については関連が高い調査結果が出ていたが、今年度もそれを裏付ける結果が出ている。質問に対し、「している」(毎日朝食を食べている)と回答をした児童生徒の平均正答率が、「全くしていない」(全く朝食を食べない)と回答した児童生徒の平均正答率よりも約10ポイント程度高くなっていることが分かった。

Q 普段(月曜から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)

質問に対し、4時間以上の長時間使用をしている児童生徒は、平均正答率が著しく低いことから、家庭への周知と協力を図りながら児童生徒の学習環境を整えていく必要があると考える。

Q 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)

Q 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

質問に対し「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒について、そうでない児童生徒よりも平均正答率が高い傾向にあった。児童生徒自身が、自ら計画的に学習に臨むことや、学習後に自身の学びを振り返り次につなげようとする姿勢や学び方が学習の理解度にもつながっていることが言える。ただし、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問については、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、全国の78.2%に比べ、本市は73.1%と低い状況にあることは憂慮すべき点である。授業の中で、学習の振り返りの時間を確保することや、児童生徒自身の言葉で振り返らせていくことなど、授業改善の重点として教職員への働きかけを継続して行っていく必要がある。

<8 ICT の活用に関する児童生徒質問紙調査の分析から>

Q (小)5年生までに、(中)1・2年生の時に受けた授業で PC・タブレット端末等の機器をどの程度使用したか

質問に対し、昨年度、今年度ともに本市の活用率は千葉県、全国に比較すると使用した率は低い。伸び率から見ると今年度は県、全国に比べて高い数値となっている。特に中学校では高い。また、全国学力・学習状況調査における ICT 活用率の数値が低い理由は児童生徒が ICT を活用していない実感があることが原因と思われる。加えて、ICT の未使用率は本市の小学校は今年度増加しており、中学校では減少している。

Q ICT の授業での活用場面

質問に対し、小学校では検索、意見交換、思考整理・発表ともに全国や県の平均を下回っている。特に、意見交換場面での活用や思考整理・発表時の活用が進んでいない。中学校では検索活動が全国や県の平均を上回っているが、意見交換や思考整理・発表場面での活用が本市は進んでいない現状がある。

昨年度から比較すると、本市では小中学校ともに依然としてタブレット端末の初期段階の活用である検索活動時での活用にとどまっている。今後は課題解決のために、児童生徒が課題設定・予想する場面での活用、意見を比較検討する場面での活用、比較検討した内容を分析・整理する場面での活用、分析・整理した内容を、わかりやすく児童生徒が発表する場面での活用ができるように指導していく必要がある。